

第4回北秋田市産業祭

農・商・工の物産 技術を一堂に

「大好き 北秋田市 おこそう 地域の風」をテーマとした第4回北秋田市産業祭が10月24日・25日の2日間、鷹巣体育館を会場に開催され、農・商・工全般にわたる展示品の観覧や特産品を買い求める多くの人出でにぎわいました。

合併初年度は、旧町ごとに分散開催されました産業祭（産業文化祭）も、翌年から市全体の地場産業の振興や地域経済の活性化を図るため、市や商工会、JAなどで作る実行委員会が主催し、一本化したイベントとして開催されて4回目を迎えました。

会場の鷹巣体育館には、開館の午前10時から大勢の人が詰め掛け、ステージ前で開会セレモニーが行われました。はじめに副市長の佐藤唯直産業祭会長が、昨今の経済情勢は非常に低迷が続いている中で、今年もこのように産業祭が開催できたことは、地域の地場産業を支えている事業者及び農業者、そして関係団体の情熱のたまもの。地域を取り巻く環境は必ずしも好転する兆しを見せていない中で、農林業・商工業として、いろいろな関係団体の方々がそれぞれの業種に希望、将来の発展を託し、安全で安心できる農産物の生産、あるいは安全安心

な生活のできる環境づくり、物づくりに励んでおり、その情熱を感じて展示物をご覧いただきたい。また、出展者においては、同業種、異業種の方々と交流を深め、お互いに切磋琢磨することによって、それぞれの能力を高めていただきたい。今日・明日の2日間、いろいろな展示・催し物をどうぞゆっくりご覧いただき、楽しみを共有していただければ、などとあいさつ。続いて、農産物品評会の表彰が行われたほか、来賓のあいさつがありました。

館内では、JA農産物展示、木材、清掃などの事業者による企業製品の展示や販売、北秋田市に新設される高校の学校活動の紹介、秋田内陸線や大野台工業団地のPR、鷹巣技術専門校の展示・販売、鷹巣建築技術組合による建築技能大会課題実演が行われました。また、会場の入口の物づくりふれあい広

場では、巣箱づくりなどの体験コーナーが設置され、親子連れで賑わったほか、実演で完成した建物からの紅白の餅まきには、多くの来場者が集まり大きな歓声が上がっていました。

主催のとうふ早食い競争が行われ、会場を盛り上げました。このほか、サブ体育館と屋外のテント村では、びっくり商業祭が開かれ、農産物やお菓子、スポーツ用品、除雪機等の格安販売、「やまと豚」や「なんこ鍋」などの特産品に多くの買い物客で賑わいました。また、体育館横では、チェンソーアートの実演（カービングショー）や作品の抽選会、警察車両や消防ハシゴ車の展示なども行われました。



農事組合法人「坊沢営農組合」主催で行われたとうふ早食い競争（子供の部）



うふ早食い競争



警察車両展示コーナーでは、白バイに乗って記念撮影



屋外のテントでは、「やまと豚」や「なんこ鍋」などの特産品を販売



上棟式のあと、建設技能組合による紅白の餅が振る舞われ、ふれあい広場に多くの来場者が集まり大きな歓声が上がりました



質の良い見事な農産物が並ぶ（写真：北秋市長賞のネギ）



物づくりふれあい広場での巣箱づくり体験コーナーは親子連れでにぎわいました



農畜産物品評会に出品された見事な農産物



ステージで行われた、大道芸マツキーのジャグリングや「民謡ショー」などを楽しむ来場者



多くの人出でにぎわった第4回産業祭